

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

現在、全国的に高齢化が進んでいることに加え、特に中山間地域においては、日常生活やコミュニティの維持が問題となっており、これらの解決のために地域の教育力の向上を基に、持続可能な地域社会をつくることが求められているところです。

奈良市東部に位置する都祁中学校区（都祁地域）においても、ここ数年来、前述の課題が顕在化してきたことから、これらの解決に向け、日々の教育活動を地域からの協力・支援を得ながら進めてきました。

東日本大震災以降、防災教育の重要性和有効性が改めて確認されているところではありますが、都祁中学校区においてもキャリア教育に地域防災の視点を踏まえ取り組んでおり、今年度は、地域の「防災マニュアル」改訂に関わるなど、万一の災害発生時に備えることの大切さについて学ぶことができました。



【今年度のまとめ】

今年度は、4月から2か月間の臨時休校を経て教育活動を開始することとなり、協議会活動にも感染症防止対策としてさまざまな制限が設けられることとなりました。そのような状況下においても、コーディネーターや委員の方々を中心として、地域の方々からのご協力を得て各事業をすすめることができました。

また中学校区内のこども園・小学校・中学校とも機会を精選しつつも効率的に連携・交流を深めることができ、学びの連続性を踏まえた教育活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症に関しては、未だ、収束の兆しを見せていませんが、今後に向けては、新しい生活様式に基づきながら、オンライン等を活用した園児・児童・生徒や地域と教職員の交流などを取り入れながら、効果的に事業を行えるよう事業計画の検討をすすめていきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに**たくましく未来を切り拓く 都祁の子**

取組目標

中学校が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

1. 防災教育への取組

「生きる力」を育むことを目的とし、防災教育の一環として、地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。地域在住の防災士の方よりご指導をいただき、具体的に「命を守る行動」として何ができるかを考え、日々、万一の災害発生時に備えることの大切さについて学ぶことができました。

2. 学力向上に向けた取組

地域在住の元学校教員の方を講師に招いて「学力補充教室」を開催しました。

「数学」の学力向上を目的として、教員2名とともにティームティーチングや少人数指導によるきめ細やかな学習指導により、基礎学力向上を図りました。

〔学力補充教室〕



3. 伝統・文化理解教育への取組

「保健体育」カリキュラムや「総合的な学習の時間」における伝統文化理解の取組として、地域の指導者により「エイサー（沖縄民謡・舞踊）」の指導を行っていただきました。

自然と伝統にあふれる都祁の地域に住まう生徒にとって「自然・文化理解」など、多様な学習への発展や「伝統に対する感性」を培うための貴重な学びの機会となりました。

〔エイサー指導〕



【今年度のまとめ】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、例年実施されている地域最大の行事「都祁高原マラソン」の開催が中止となるなど、運営委員会の事業に関して、年度当初の計画から大幅に変更せざるを得ない状況でありましたが、地域の方々のご協力・ご支援をいただきながら、事業を進めることができました。

【来年度に向けて】

来年度においても、新型コロナウイルス感染症への対策を十分に講じながら、事業を精査・精選し、効率的・効果的に推進していきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに**たくましく未来を切り拓く 都祁の子**

取組目標

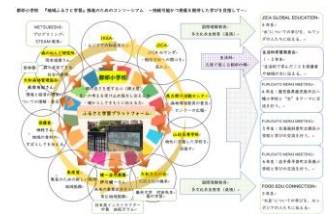
地域や地域の人から学ぶ学習『探求心・好奇心にあふれた学びの場：キャリア教育の活性化』を通して、自分たちが住む郷の持続可能な社会の実現に向けて SDGs の視点を意識し、自分たちに何が出来るのかを考えられる力の育成。

【今年度の取組紹介】

昨年度（H31）より、郷土「ふるさと」学習において“育みたい力”の1つに“郷の良さを愛せる心”に据え、6年間を見通した教育プログラムの構築と、教科の特性を生かし合う横断的な学習、すなわちカリキュラムマネジメントを積極的に取り入れ学習を進めてきました。

“『地域ふるさと学習』推進のためのコンソーシアム”とは、教科の特性を生かし合う横断的な学習、すなわちカリキュラムマネジメントを積極的に取り入れ、“持続可能かつ発展を期待した学び”を目指して、企業や事業所、地域にある公共施設や学校関係機関、地域の方々等を取り込んだ“学びのプラットフォーム”を基盤に、その発信先である学校や機関を含めた“学びの共同体”のことで

また、全校一斉に取り組む“森の学校”（11月17日、県野外活動センター）では、“ふるさと学習プラットフォーム”に係る方々を招き、実際に大自然に触れながら、自然を五感で触れられる機会とすることで、“育みたい力”の1つに“郷の良さを愛せる心”を確かなものとして定着させました。



【今年度のまとめ】

多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制として、平成27年の中央教育審議会の答申で提言された地域学校協働本部。まさにこの事業に当たるのが、この事業であり、本校ではこのことを念頭に進めてきた結果、一人一人が自分に与えられた役割に責任感を感じながら、地域の課題を解決しながら作業を進めていくことで、持続可能な社会・地域の作り手として責任を果たせる素地を養えることができました。

【来年度に向けて】

GIGA スクール構想で整えられた環境を最大限に生かし、“学びのプラットフォーム”で関わり合う団体・個人が互いに要求し合い、それを適宜確認しあい（MUTUAL PROSPERITY の関係）、より良い教育の創造、『教育の力で地域創生を！』に努めていきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに、

取組目標

たくましく未来を切り拓く、都祁の子**地域とのつながりを感じながら、心豊かで、生き生きと生活する
子どもの育成**

【今年度の取組紹介】

『サツマイモの収穫』臨時休業中に地域の方と職員で、子ども達に代わって畑の準備や苗の植え付けを行いました。保育再開後から、4歳児が中心になりサツマイモ畑の世話をしました。水やりや草引き等をしてサツマイモの生長を願い大切に育てました。大きく育ったサツマイモの収穫当日は、地域の『畑の先生』が来てくださり一緒に掘りました。サツマイモの掘り方を教えていただき、ツルを引っ張ったりスコップや自分の手で土を掘ると、大きなサツマイモや赤ちゃんサツマイモが出てきました。園児たちは「大きいおイモとれた」「赤ちゃんイモや」と自分で収穫したことに大喜びでした。沢山のサツマイモがいくつあるか数を数えることにし、シートに並べました。畑の先生に「240個ありました」と報告すると「わあすごいね」「たくさん掘れたね」と一緒に喜んでくださいました。



『焼き芋パーティー』後日収穫したサツマイモで焼き芋パーティーをしました。畑の先生は、園児が拾い集めた落ち葉やもみ殻にエントツを立て焼き芋の準備をしてくださいました。園児達は、サツマイモを洗い、濡らしたキッチンペーパーとアルミホイルで包み準備をしました。黒くなったもみ殻の焚火の中に包んだ芋を入れ、「おいしくなあれ」とお願いをしました。煙のおいでいっぱいになった園庭の焚火のそばに集まり、畑の先生と一緒に焼き芋を食べました。「おいしい」「みんなで食べたならめっちゃおいしい」と大喜びでした。地域の方と触れ合い楽しい経験をすることで、親しみを持ち自ら関わったり、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする姿が増え、地域への親しみの気持ちが自然と培われてきました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の1年で地域の方と触れ合う機会が限られていましたが、一つ一つが大変貴重なものとなりました。おはなしのひろば・生け花体験・菜園活動等様々な活動ができ、また1年を通して地域の方と関わることで、「畑の先生や」「お話、届けに来てくれたよ」とより親しみや感謝の気持ちを持ちました。次回に期待し楽しみにする姿が見られました。また地域の方々に認めてもらったり褒めてもらったりすることで、自信や意欲にも繋がりました。

【来年度に向けて】

地域の方との繋がりを感じ「心豊かで生き生きと生活できる子ども」を目指して、地域・園・家庭が一体となり取り組んでいけるよう、相互の連携を強化し、様々な感動体験ができるように取り組んでいきたいと思ひます。